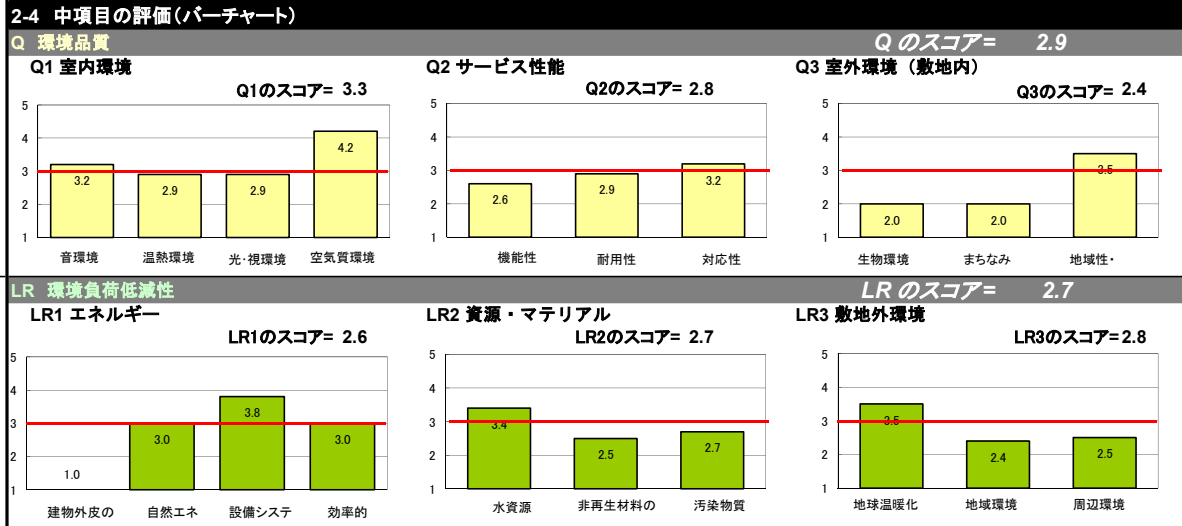
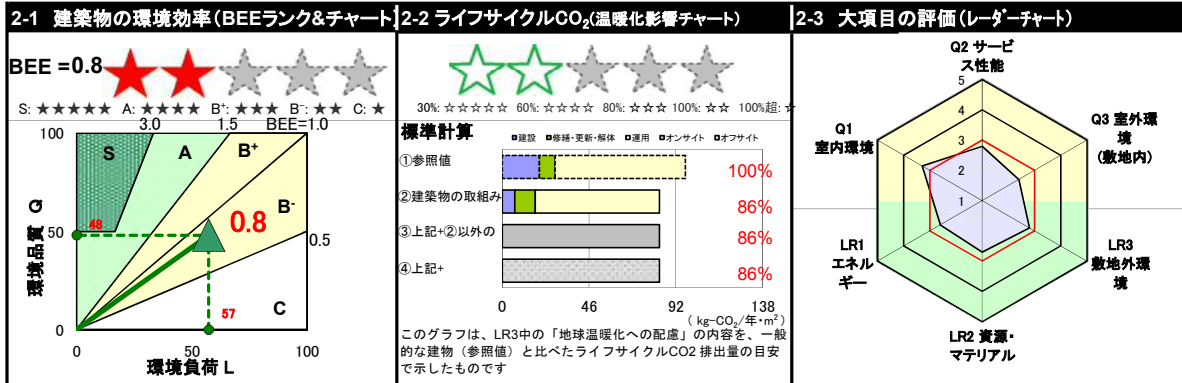


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイアパレス刈谷広小路 新	階数	地下1階地上14階
建設地	愛知県刈谷市広小路七丁目8-1他2	構造	RC造
用途地域	商業地域・近隣商業地域・第一種住	平均居住人員	302 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2017年7月27日
敷地面積	2,149 m ²	作成者	片山弘
建築面積	1,192 m ²	確認日	2017年8月30日
延床面積	7,614 m ²	確認者	片山弘

外観パース等



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">37.9 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積 (建築面積及び附属物面積) を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数		
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.3	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														-	
2 温熱環境														2.9	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														-	
2.2 湿度制御														2.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														2.9	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														1.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														4.2	
4.1 発生源対策														5.0	
1 化学汚染物質														5.0	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														-	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														-	
1 CO ₂ の監視														-	
2 喫煙の制御														-	
Q2 サービス性能														2.8	
1 機能性														2.6	
1.1 機能性・使いやすさ														1.6	
1 広さ・収納性														1.0	
2 高度情報通信設備対応														-	
3 バリアフリー計画														1.0	
1.2 心理性・快適性														1.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														-	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														1.0	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.2	
1 躯体材料の耐用年数														5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														2.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														2.2	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														2.0	
3 電気設備														1.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														2.0	

3 対応性・更新性					3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり					-	-	3.6	3.6	-	0.50
1 階高のゆとり			階高を2.915以上確保		-	-		4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-		3.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30				3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上			緑化を適度確保		4.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性										2.7
LR1 エネルギー					-	0.40				2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制					1.0	0.33				1.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			省エネルギーの物を採用		3.8	0.33				3.8
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価										-
4.1 モニタリング										-
4.2 運用管理体制										-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.7
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器を使用		4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無										-
2 非再生性資源の使用量削減					2.5	0.63				2.5
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		1.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自			3.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.7	0.22				2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68				-
1 消火剤					2.0	0.33				-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33				-
3 冷媒					3.0	0.33				-
LR3 敷地外環境					-	0.30				2.8
1 地球温暖化への配慮		①	植栽を適所に配置		3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮					2.4	0.33				2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自	駐車を115%、駐輪場を204%確保		4.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					2.5	0.33				2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					-	-				-
1 騒音		独自			-	-				-
2 振動		独自			-	-				-
3 悪臭					-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.67				-
1 風害の抑制										-
2 砂塵の抑制					3.0					-
3 日照障害の抑制					3.0	1.00				-
3.3 光害の抑制					1.6	0.33				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					1.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

(仮称)タイパレス刈谷広小路 新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10
② 資源の有効活用			2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:37.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)ダイアパレス刈谷店

計画上の配慮事項	
総合	有害性のもを使わない
Q1 室内環境	F☆☆☆☆を使用
Q2 サービス性能	階高を2.915以上確保
Q3 室外環境(敷地内)	緑化を適度確保
LR1 エネルギー	断熱等級4を取得
LR2 資源・マテリアル	節水型の住設機器を使用
LR3 敷地外環境	駐車場や駐輪場を戸数以上確保
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。